

学科名	建築・デザイン学科							
科目名	建築設計 I							
科目区分	専門科目	単位数	3単位	開講時期	2年次前期			
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/必修科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)							
担当者	益田 信也、小池 博、石田 聖一、森崎 浩							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みせる図面」と「つくる図面」の表現と基本的な製図法が理解できる。(A7)</li> <li>・対象となる建築物の設計に関する情報を収集・分析できる。(B6)</li> <li>・与えられた条件を理解して、計画課題と設計条件を設定できる。(B6)</li> <li>・コンセプトを立案して基本的な空間を構成し、建築物として形態決定ができる。(B6)</li> <li>・具体化された建築物を他者に伝達できる的確な図面として表現できる。(A7,B6)</li> </ul>							
日程と内容	<p>4/13 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法 ／課題1「森のギャラリー(木造)」の説明、製図法および木造の解説</p> <p>4/20 コンセプトの立案、空間構成と配置計画</p> <p>4/27 コンセプトの発表とエスキス、架構計画と設備計画</p> <p>5/07 エスキスの展開、エスキスレポート・架構スタディ模型提出</p> <p>5/11 エスキスの完成、製図</p> <p>5/18 図面提出、プレゼンテーションと講評会</p> <p>5/25 課題2「コートハウス(RC造)」の説明、資料収集とコンセプトの立案</p> <p>6/01 コンセプトの発表とエスキス、空間構成と配置計画</p> <p>6/08 エスキスの展開、構造計画と設備計画</p> <p>6/15 エスキスの完成、エスキスレポート提出</p> <p>6/22 製図、講評</p> <p>6/29 図面提出／模型および模型写真について</p> <p>7/06 模型製作、模型写真の撮影</p> <p>7/13 模型および模型写真提出</p> <p>7/20 プレゼンテーションと講評会</p>							
成績評価基準	定期試験	0%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	10%	課題	75%		
	演習	15%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<p>課題をすべて提出できた学生は、程度の差はあるものの到達目標を達成できたと判断している。程度の差は、計画コンセプト、空間構成、プレゼンテーションの魅力や精緻である。合格率84.7%は昨年の89.6%と比べてやや低下したが、不合格者のほとんどは再履修生である。また、秀評価の優秀な課題作品があまりないことは残念だが、それにもかかわらず合格者の平均点は77.4点と昨年の77.0点をやや上回る成果は全体の底上げはできたとみなせる。</p>							
反省点	<p>シラバスを改訂して3年目、教員メンバーが変更となって(専任2名、非常勤2名)2年目の運営であり、コミュニケーションも以前に比べて図れた。また、無断欠席や履修放棄の結果不合格となる現役の受講生はきわめて少なく受講態度は例年になく良好だったが、秀でた作品の提出については昨年より劣る感はぬぐえない。来年度からのカリキュラム改訂で今後受講生はさらに増えることになり、きめ細かな対応が必要である。</p>							
来年度の計画	<p>昨年度に引き続き、教員4名態勢で授業を運営したが、成果が著しいため新カリ以降も可能であれば恒常化していきたい。</p> <p>また、初学の学生にも取り組み易いように、配付資料や演習のメニュー等の改善を今年度と同様に重ねていきたい。</p>							
授業評価アンケートに対するコメント	<p>総合評価は7.9点は昨年度の8.2点からやや後退した。一方、一部のアンケート項目(自学自習)で全科目の平均値1.9点よりはるかに高い点数4.6点を獲得しており、演習科目の特性上当然と言えば当然であるが、必要十分な学習時間の習慣を身につけさせることはできたようである。</p>							
履修登録者数	85名	定期試験受験者数	試験はしない	合格者数	72名	合格率	84.7%	